

『共感的理解』の姿勢をチームで ～ 情報共有の大切さ ～

ときに共感的理解は「甘やかし」と捉えられることがあり、チームとしての対応が一致しないことがあるかもしれません。しかし子供の成長のためには、教職員それぞれが共感的理解をもって関わる必要があります。チームで共感的理解を進めていくには、次のような情報共有が大切な役割を果たします。

情報共有の
ポイント
～『目立つところ』
だけではなく全体
像を捉える～

□子供に関わったときの反応
□クラスでの様子
□子供の強み・長所
□家庭環境・成育歴
□相談・医療機関の情報

例) 強く言うと反発するが、褒めると素直である。
例) 教員には反抗的だが、クラスでは信頼がある。
例) 普段は真面目な頑張り屋である。
例) 親との関係はあまりよくない。
例) 友人関係の悩みから、教育相談に通っている。

情報共有と背景の
検討はセットで行う

行動の背景を
考えるポイント
～表面の行動に隠
された『気持ち』を
見る～

□表面の態度からは見えにくい
本当の気持ち
□相手によって見せる姿の違い
□体調や気分の波による影響
□家族関係による影響
□過去の体験による影響
□特性や発達課題の影響

例) 怒っているようだけど、何か不安があるかも。
例) 先生によって態度が違うのは、なぜだろう？
例) 態度がよくないけど、体調が悪いのかな。
例) 機嫌が悪いのは、親と喧嘩してきたせい？
例) 行事を嫌がるけど、嫌な思い出があるのかも。
例) さぼっているように見えて、実は苦手なだけ？

このようなプロセス
を経っていくと…

子供の理解が
深まる

よりよい関わりの
糸口がつかめる

チームで一貫した
対応ができる

関わる教職員が
互いに支え合える

『情報共有⇄子供に関わる』という双方向のプロセスを繰り返していくことで、子供は「自分のことをわかってくれている先生がたくさんいる」「先生たちは困ったら助けてくれる」と感じ、安心感と大人への信頼感を高めます。『大人から守られている』感覚の中で、子供は自らを振り返り、成長していきます。

それでもうまくいかないときはどうぞ御相談ください。

【教職員等からの児童・生徒理解に関する相談】
☎03-3360-4160（平日午前9時から午後5時まで）
【要請訪問（教育相談に関する研修、事例検討会等）】
<https://e-sodan.metro.tokyo.lg.jp/works/request/index.html>



「広報すこやかさん」の感想をお送りください：S9000078@section.metro.tokyo.jp



広報

すこやかさん

東京都教育相談センター所報
第43号
令和4年2月発行



◆「共感的理解」を生かした児童生徒対応

■ 生徒指導と共感的理解

文部科学省は、小学校学習指導要領総則（平成 29 年告示）において、「生徒指導を進めていく上で、その基盤となるのは児童一人一人について児童理解の深化を図ることである。（中略）児童一人一人の不安や悩みに目を向け、児童の内面に対する共感的理解をもって児童理解を深めることが大切である」と記しています。

同様に、中学校学習指導要領総則（平成 29 年告示）には、「思春期にあって生活環境の急激な変化を受けている生徒一人一人の不安や悩みに目を向け、生徒の内面に対する共感的理解をもって生徒理解を深める」、高等学校学習指導要領総則（平成 30 年告示）では、「青年期にある高校生一人一人の不安や悩みに目を向け、生徒の内面に対する共感的理解をもって生徒理解を深める」と記されています。

■ 生徒指導と教育相談の関係

文部科学省は、生徒指導提要（平成 22 年 3 月作成）において、教育相談は「生徒指導の一環として位置付けられているものであり、その中心的な役割を担うもの」としています。

特に、教育相談の中でも生徒指導における「呼出し面接」（教員から児童生徒を呼び出して面接を行うこと）については、その難しさを記しています。例えば、往々にして問題が生じたときに呼び出されるため、児童生徒は、「呼出し=罰」と捉えてしまい、心を閉ざしたり、防衛的になったり、不満や反発する気持ちを表してくることが多いと記されています。また、問題発生直後に行われることが多いため、とりあえず指導しなければならない現実的な問題ばかりに気を取られ、教員も説教的、説論的になりがちであるとも示されています。

■ 「共感的理解と生徒指導」の実践を積み重ねる

当センターに寄せられる相談の中には、大人の思い込みや先入観のため、子供への理解が不十分になり、苦情となる事案が散見されます。「指導が必要な行為」についての子供への対応に当たっては、その背景や事情を理解する必要がある、「子供の心を理解し共感すること」が重要です。是非、今号を参考にいただき、児童生徒の問題行動の心理的背景まで考えるような生徒指導の実践を積み重ねていただければと思います。



き〜Q



たのるん



あめっち



むかブン

相談センターに新しい仲間が加わりました。よろしくお願いします！

【電話相談の御案内】

◆教育相談一般・東京都いじめ相談ホットライン いじめ、友人関係、不登校、発達障害等 電話 0120-53-8288 受付 24 時間
◆高校進級・進路・入学相談 都立高校への進学・転学・編入学、高校中途退学後等 電話 03-3360-4175 受付 平日：午前9時～午後9時
※通訳を介した外国人児童・生徒の高校等進路・教育相談（通訳対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語） 土日祝日：午前9時～午後5時
※毎週金曜日：午後1時～午後5時（午後4時まで受付）祝日を除く
◆教職員等からの児童・生徒理解に関する相談 電話 03-3360-4160 受付 平日：午前9時～午後5時
※児童・児童・生徒の理解や関わり方、校内の教育相談体制づくり、研修会講師派遣等

「すこやかさん」は当センターのホームページで全号御覧になれます。

※過去発行のものは、電話番号・事業など現在と異なっているものもあります。

東京都教育相談センター <https://e-sodan.metro.tokyo.lg.jp/>

指導場面における共感的理解 ～ 行動の背景に思いを馳せる ～

『共感的理解』とは、相手の気持ちに寄り添い、相手の立場に立って理解しようとすることであり、子供をより深く理解し、子供への関わり方を見いだすためにとても大切です。子供が不適切な行動をとったとき、行動の背景にある子供の『気持ち』を受け止め、行動に至った背景や事情を理解することが、その後の指導に生きてきます。『共感的理解』を行うことは指導の前提となる関わり方の『基本姿勢』であり、決して指導と対立するものではなく、指導のために必要なことです。次の事例は、AさんのSNSへの書き込みがクラスで噂になっているのを担任が聴き、本人に事情を聴く場面です。子供を理解しようとするために、先生自身はどのような気持ちで子供の話を聴いているでしょうか。

一生懸命、正論で諭そうとするけれど…

いつも言っていることをまた言うのか。

先生：最近 SNS に悪口を書き込んでいるんだって？
何でそんなことしたんですか？

生徒：（むっとして）何のことですか？

反抗的だな。
反省する気ないな。

先生：悪口を書かれた相手は傷付くって、
考えたら分かるでしょう？

生徒：…向こうが悪いんだよ。

何度も言っているのに
どうして分からないの
だろう。

先生：たとえそうだとすると、ネットに悪口
を書き込んだりするの**は**だめだって
いつも言っていますよね。

生徒：私だってむかつくこと言われたのに…。

本当に分かって
いるのかな。

先生：それなら直接言え**ば**いいことだと思いま
すよ。今後書き込むようなことはしないよ
うにしてくださいね。分かりましたか？

Aさんはどう感じ、
どのような会話が
続くでしょうか。

生徒：
〇〇

心の顔（気持ち）は見えていますか？

怒って悪口を書き込
んでいるように見え
ても、心は傷付き、
悲しんでいるかもし
れません。



子供の気持ちを受け止めてから指導をしてみると…

まずは何があったのか、Aさんの話を聴こう。

先生：今日はAさんのSNSの書き込みのことで話を聴きたいと思って来てもらいました。

生徒：（むっとして）何のことですか？

イラついているな。でもこちらは冷静に対応しよう。

先生：「アイツうざい、死ね。」って書かれていて、何があったのかなと思って。

生徒：書くなってことですよね？すみませんでした～。

反抗的だな…。どんな風に話したらいいんだろう？

先生：まあそれもあるんだけどね…。今日はどんな気持ちで書いたのかを聴きたくて…。

生徒：…（沈黙）。

様子が変わったかな。ちょっと待ってみよう。

先生：…（沈黙）。

生徒：Bにむかつくこと言われた…。

少しずつ話してくれた。このまま聴こう。

先生：そうだったんだね。何があったの？

生徒：馬鹿にしてくる感じで「Aと話していると疲れる～」とか。

そうか、
あの書き込みにはこういう背景があったのか。

先生：そうだったんだね。そんな風に言われてむかついたんだね。

生徒：いつもそういうことを言うてくるけど、その場では笑ってごまかすことしかできなくて…。（先生：うん。）だからむしゃくしゃして、もういいやって書き込んで…。

その気持ちは、理解できるな。

先生：そうか。むしゃくしゃした気持ちをどうにかしたくて書き込みをしたんだね。

まずはAさんの傷付きを受け止めよう。
Aさんも納得する形で、
適切な行動に変えていけるかな。

生徒：そうです。これまでも〇〇××△△ってことがあって（Bとのエピソードを語る）。

先生：そうだったんだね。話してくれてありがとう。
Aさんも傷付いていたんだってことが伝わってきました。ただ、先生はAさんの書き込みで傷付いた人もいたと思うんだけど、どう思いますか？

生徒：
〇〇

このやり取りでAさんはどう感じ、
どのような会話が続くと思いますか。
想像してみてください。

『指導の入り口』として子供の気持ちを受け止めています。同じように、この後にもこんなやり取りができるといいですね。「SNSに書き込みをしたとき、むしゃくしゃした気持ちはどうになりましたか？」「Bさんとは、このままでいいのかな？」「また同じようなことがあったときにどうしたらいいか、一緒に考えましょう」など。

指導というと、不適切な行動を禁止することや謝らせることを意識してしまいがちですが、行動の背景にある子供の気持ちに気づき、共感しながら、一緒に適切な対処方法を考えていくことが大切です。その積み重ねが、大人との信頼関係を築くことや子供の内省を深めることにつながっていきます。信頼関係があってこそ、大人の言葉は子供に届き、考える力を育て、適切な行動へとつながります。

次ページでは情報共有の大切さ「『共感的理解』の姿勢をチームで」について解説します。